

---

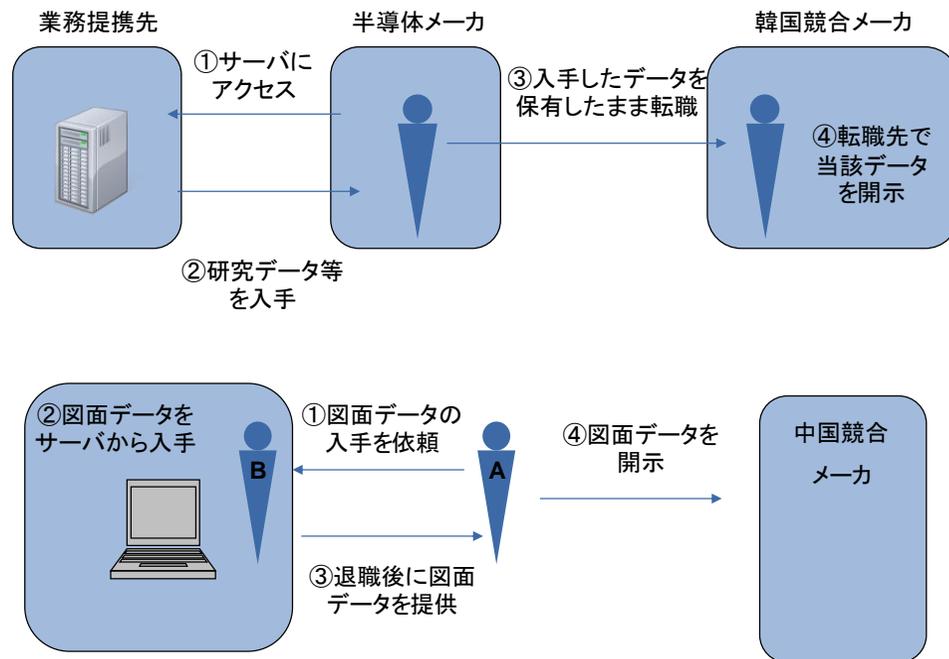
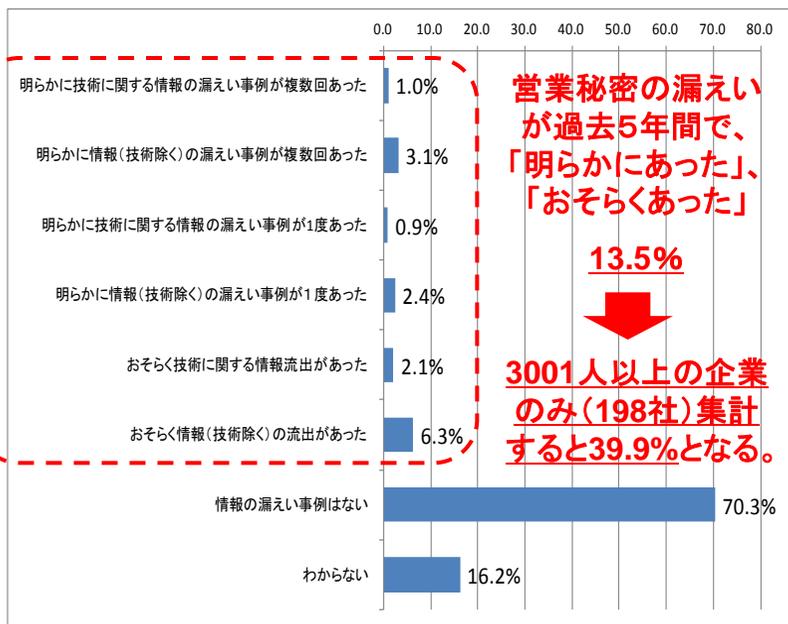
# 技術流出リスクアセスメントのご案内

---

# I. 迫られる「技術流出」リスクへの対応

- 技術流出は、企業戦略の根幹を揺るがすリスクです。
- 技術流出リスクの顕在化パターンの1つである営業秘密の漏えいは、過去5年間に約4割(従業員規模3,001人以上の企業)の会社が経験をしており、リスク顕在化事象の発生頻度が高いリスクです。
- 技術流出リスクが顕在化した場合、製品競争力／市場シェアの低下等による経済的損失はもちろん、大きな戦略の見直しや、社会的信用の失墜等、企業経営に重大な影響を与えるリスク類型であり、適切なリスクマネジメントが行われなければなりません。

たびたび「技術流出」事例が報道されていますが、報道されている技術流出リスクの顕在化事例は氷山の一角です。



(出所)経済産業省(委託先:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)「人材を通じた技術流出に関する調査研究報告書(別冊)」(2013年3月)50頁。

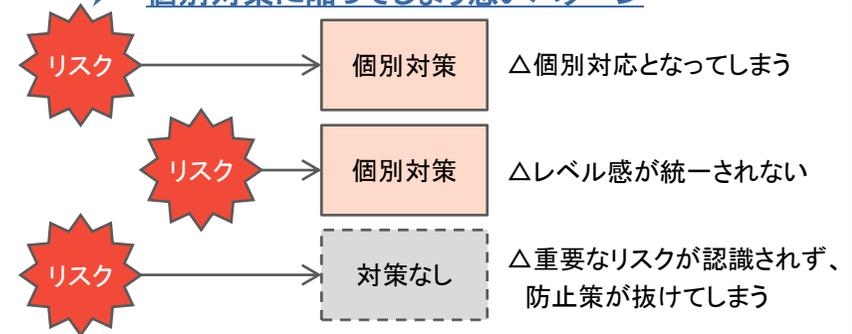
## Ⅱ. 「技術流出」リスクマネジメントのポイント

- 「技術流出」リスクが顕在化するパターンは多様であり、求められる対策も様々です。闇雲に対策を講じるのではなく、**全社的にリスクをマネジメントしていくことが必要**となります。

### 典型的な技術流出のパターン

1. 契約の不備や契約管理上の不備による技術流出
2. 製造や取引のプロセスに係る管理上の不備による技術流出
3. 営業秘密・企業秘密の管理上の不備による技術流出
4. 人を通じた技術流出

### 個別対策に陥ってしまう悪いパターン



### 技術流出対策の具体例

管理規程の見直し

知的財産管理の強化

製造プロセスの見直し

契約管理の強化

営業秘密管理の強化

開発プロセスの見直し

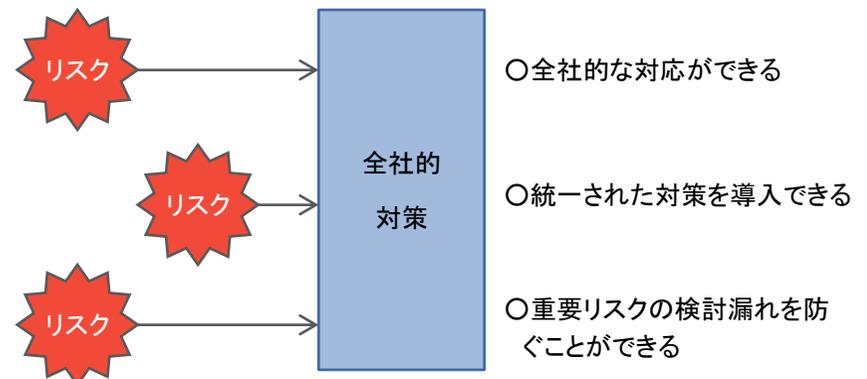
情報セキュリティの強化

労務管理の強化

海外拠点の管理強化

研修の見直し

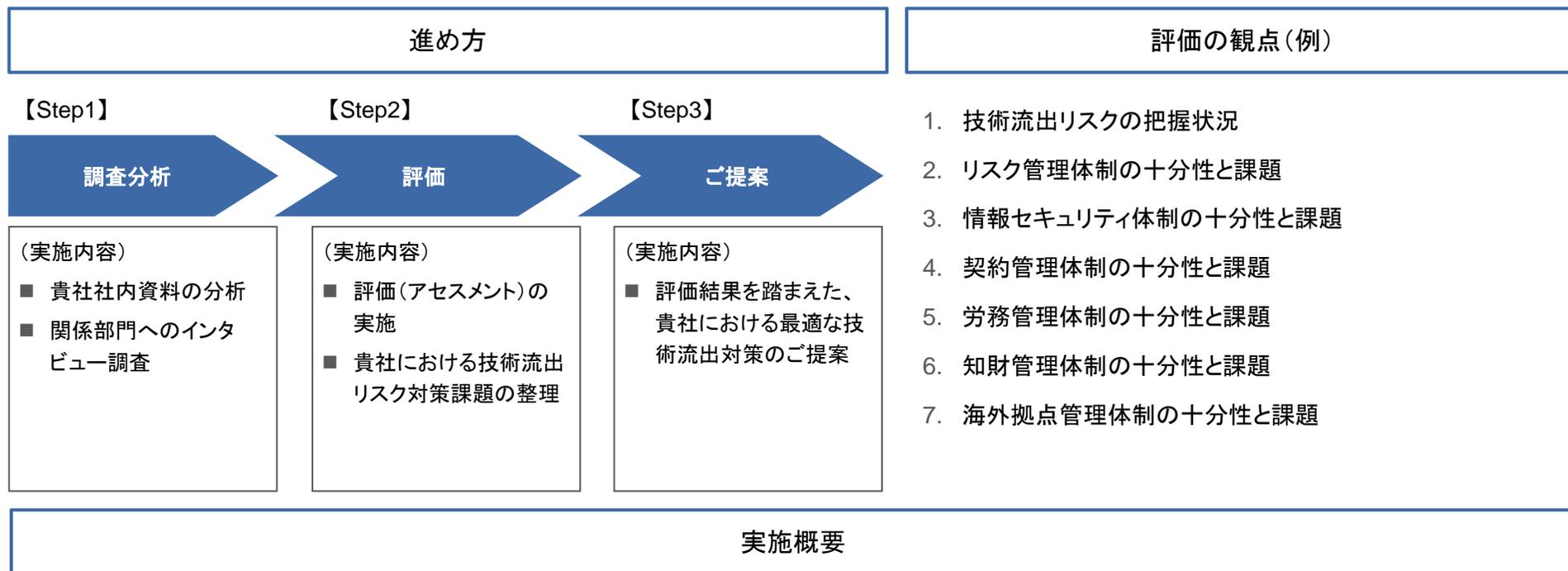
### 望ましい対策の検討イメージ



**様々な技術流出パターンがあることを念頭に、どのような対策を行っていけば良いのかについては、全社的なリスクマネジメントの中で戦略的に判断していくことが必要です。**

## Ⅲ. 「技術流出」リスクアセスメントのご提案

- 貴社における「技術流出」リスクを評価し、貴社における技術流出リスク対策の課題を整理した上で、貴社における最適な技術流出対策のあり方をご提案いたします。



- 当社が秘密保持義務を負うことを前提に、貴社の社内資料(例えば関連規程類、関連書式、契約書、体制図等)を分析させていただきます。
- マネジメント層の方や現場の部門長クラスの方へのインタビューを実施させていただきます。
- 調査分析の対象は、貴社全ての拠点を対象とするものではありませんが、可能な限り全社的な評価及び課題整理を行い、全社的な対策をご提案します。
- 実施期間は貴社の規模等にもよりますが、1ヶ月半から3ヶ月程度を想定しております。

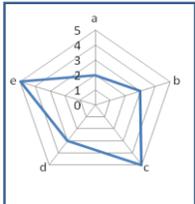
## 【ご参考】アウトプットイメージ

- 貴社における「技術流出」リスクの評価結果、貴社における技術流出リスク対策の課題整理した上で、貴社における最適な技術流出対策のあり方のご提案を、レポートにまとめます。

### アセスメント報告書のフェイスシートイメージ

#### 技術流出リスクアセスメント結果

【総合評価】



フェイスシートには、  
評価の観点毎に結論  
の要旨と総合評価を  
記載します。

視覚的に相対的に注  
力することが必要な事  
項が把握できるように  
整理します。

技術流出リスクの把握状況

リスク管理体制の十分性と課題

情報セキュリティ体制の十分性と課題

契約管理体制の十分性と課題

労務管理体制の十分性と課題

知財管理体制の十分性と課題

海外拠点管理体制の十分性と課題

### アセスメント報告書の記載イメージ

#### 情報セキュリティ体制の十分性と課題

情報セキュリティ体制の十分性と課題

評価項目毎に、十分  
性の評価(定性評価)  
と課題の整理を行いま  
す。

情報セキュリティ規則の十分性

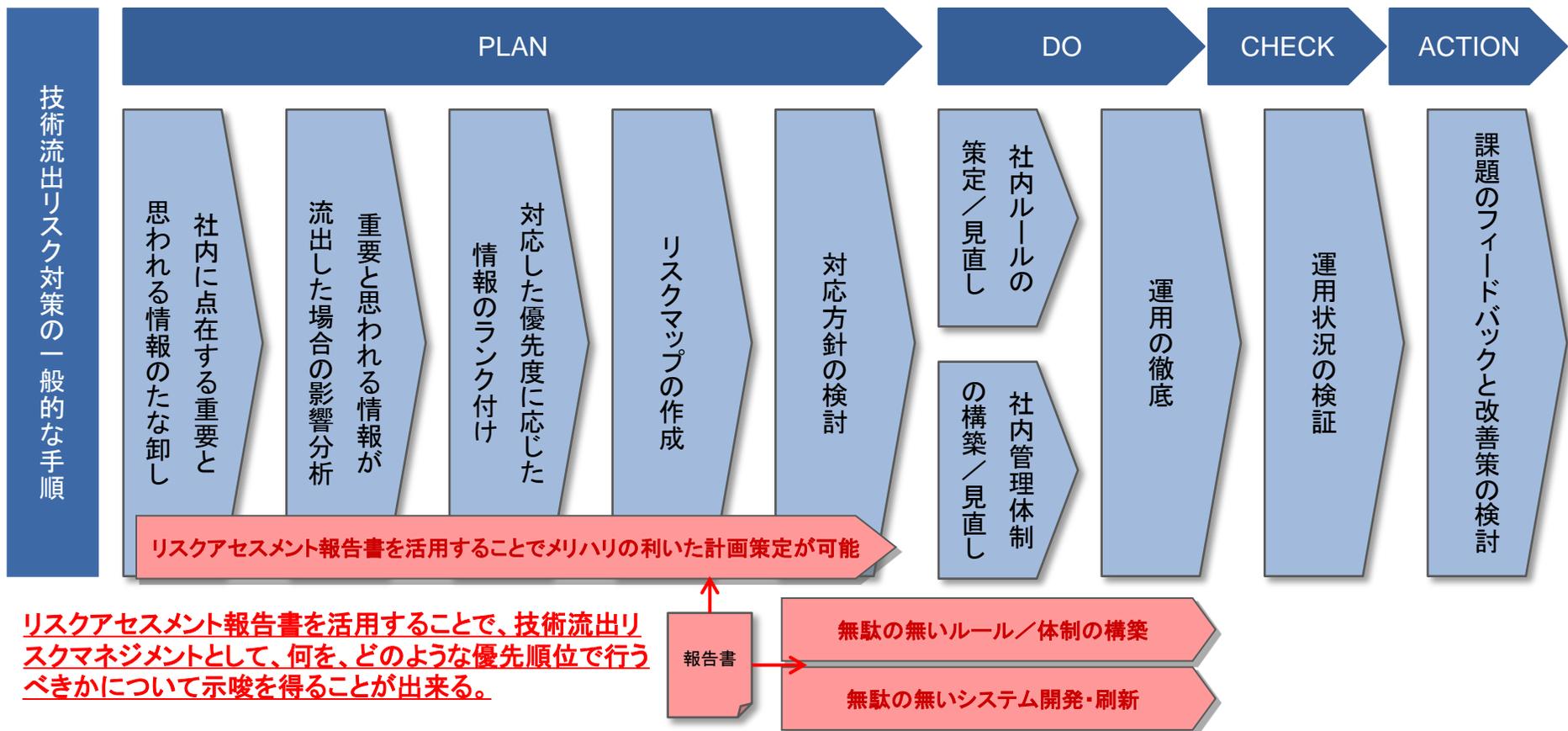
各評価項目ともに3  
ページ以内程度で要  
旨を整理し、全体で  
20ページ程度のボ  
リュームに整理するこ  
とで様々な検討場面  
で活用可能なレポー  
トとします。

情報セキュリティ規則の課題

検討内容や結果の詳  
細については別途資  
料としてご担当者様  
に納品します。

## IV. 「技術流出」リスクアセスメント報告書の活用方法

- リスクアセスメント報告書は、貴社における全社的な技術流出リスクマネジメントの仕組みづくりに対する処方箋となります。特に全社横断的なリスク管理規程やリスク管理体制、情報システム等の整備方針を検討する際の指針となります。



## 本資料について／ご連絡先

### ■ 本資料に関する確認事項

- 本資料のご提示により、貴社と三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の間には何ら委任その他の契約関係が発生するものではなく、弊社が一切法的な義務・責任を負うものではありません。
- 本資料は、弊社が信頼に足ると思われる情報に基づいて作成しておりますが、弊社はその正確性、完全性及び信頼性を保証するものではありません。
- また、本資料に関連して生じた一切の損害について、弊社は責任を負いかねません。
- 本資料は弊社の著作物であり、著作権法により保護されております。弊社の事前の承諾なく本ご提案書の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。
- 本件に関してご質問等がございましたら下記の担当コンサルタントまでお問い合わせ下さい。

### ■ ご連絡先

〒105-8501  
東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー  
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社  
知的財産コンサルティング室

肥塚 直人

Phone: 03-6733-1023(部代表)  
E-Mail: koizuka@murc.jp

